

● サンプル

わたしのおまんこに吸い付いた男は、クリトリスをこねくり回しながら、片手でおまんこを、ぷにっと広げる。

ぢゅるる♡ぢゅるん♡ちゅく♡ぢゅうう♡♡

愛液ごと、わたしのおまんこを強めに吸い上げた。

「やつ…… やめてえ……、いや……ああ……」

すでに翔の前戯で濡れたおまんこは、淫らな水音を立てて男の舌に翻弄される。

翔のために、翔以外の男たちに身を委ねることに同意したとはいえ、やはりまだ頭の中が整理できていない。

でも身体が勝手に反応して、わたしは腰をよじった。男はわたしの腰を両手でホルドし、おまんこに顔を埋めて舌と唇で舐め回す。

一方、胸を揉みしだいていた男がわたしの乳首をカリカリとくすぐるように引っ掻いた。

「あああん、はっ……、あん、……あああん」

焦らすタイプの意地悪な愛撫に、わたしは物足りなさを感じた。

吸ってほしいのに――。

翔とは違う感覚に、わたしはじれったさと悔しさを覚えた。胸を左右に振ろうとすると、乳房をギュツと掴まれる。

「いっ！ あん……」

少し離れたところから、翔の視線を感じる。わたしは羞恥に顔を赤らめた。

翔が見てる。男たちに群がられて悶えるわたしの姿を、目を細めて見てる。

翔はどう感じてるの？ わたし辱められてるのに。

わたしが翔の方を向こうとした瞬間、わたしの両足首を掴み上げていた男がさらにわたしの脚を高くあげた。

おまんこを舐め回していた男が、不平の声を上げる。

「今、クンニしてる最中っ」

「わたしにアナルを見せてくださいよ」

すると、クンニしていた男が、やれやれというように、場所を変え、横から手マンを始めた。ゆっくりとごつい二本の指を出し入れする。最初は浅く、そしてだんだん深く入れてくる。

ぬぷ♡ずぷ♡ちゅぽっ♡ずぷぷ♡♡

「はっ、あああ、あん、いっっ、ひい、いっっ」

脚を持っていた男が、脚から手を離してわたしのアナルを覗き込む。

「ほう……美しいですねえ」

まじまじと観察され、わたしの羞恥心に火をつけた。

男の感嘆の声に、翔が反応する。

「当然です。僕の妻のアナルは未使用ですから」

「わたしが最初にいただいてよろしいですか？」

「ほぐしてあげてください。絶対に痛がらないように」

え？ 翔？ わたしの初めては全部、翔にあげたいと思っていたのに――。

満足気に頷いた男が、わたしのアナルをチロチロと舐め始める。

「ああ、やめて、やめて。あああ」

男はローションを取り出すと、わたしのアナルにくちゅくちゅと塗り始めた。そして指の腹で浅く入り口をならし始める。

「ふうっ、あ、んん、あん」

おまんことアナルに指を入れる男たちの動きが、こなれているような気がする。

「や、あああ、あん、い、んふう」

おまんことアナルに指を入れる男たちの動きが、こなれているよ
うな気がする。

「や、あああ、あん、い、んふう」

手マンをしている男が不敵に笑う。

「奥さん、気持ちよくなってきたね。じゃ、これはどうかな」

そう言っ指を出し入れするスピードを早める。

「あっ、はっ、あん、だめ、だめ、いや、あん」

「こっちはちよつと使ってる感——まあ人妻だから当然っちゃ当然
か」

人妻という言葉に、ビクツとわたしは反応した。

恥ずかしい。翔はどう思っているの？

翔がわたしに話しかけてくる。

「由香、気持ちいいかい？ 痛くはないか？」

わたしは、わたしは、こくこくと頷くのが精一杯だった。

「大事な奥さんを痛がらせやしませんよ」

手マンの速さが小刻みになる。

「あっ、くっ、はぁ、あん、あああ」

三人の男に、乳房や乳首、おまんことアナルを同時に責められて、わたしの腰がわななく。

「奥さま、こちらを舐めていただけますか？」

「！」

乳首を愛撫していた男が、わたしの頬をおちんぼの先でつつく。勃起したおちんぼにわたしは動揺する。

おちんぼ。勃起したおちんぼを眺めるのは久しぶりだわ。

わたしはためらう。これを啜えてしまったら、わたしの中で何か
が壊れてしまうのではないかとおののく。

ためらうわたしの口に、男はずいっとおちんぽを入れてきた。

「ん、んぐっ、おぐっ」

「奥さまが気持ちよくしてくださったら、口の中には出しませんの
でご安心ください」

丁寧な口調とは裏腹に、男のおちんぽは凶悪なほど大きかった。
頬張る。おちんぽで口の中がいっぱいになった。男が腰をゆっくり
と使い、強制フェラが始まる。

ずぽ♡ずぽん♡ずっ♡ずちゅ♡ちゅぽ♡ちゅぽん♡

自然と唾液が出てくる。わたしは舌を使って男のおちんぽをしゃ
ぶった。

上手くできたら、口の中には出さないって言ったような。

「奥さま、そうです。舌がいい動きをしています。欲を言えば、唇も使ってしごいていただきたい」

んぼっ♡ぢゆる♡ぢゅぽ♡ずちゅ♡ぢゅぽ♡

わたしは眉根を寄せて、フェラを続けた。

「由香、いい表情してるね。勃起したちんぽは、しゃぶり甲斐があるだろう？」

翔が見つめてくる。見られている。

「えーっと、こっちもそろそろ挿れるか」

体勢を変えられ、手マンをしていた男と対面座位の形にさせられた。

ずっっ♡ずぶぶぶうっっ♡